



市内各地で夏祭り開催

今年も市内各地で夏祭りが開催され、栗原の夏を熱く盛り上げました。
江戸時代から続く伝統の祭りや幻想的な雰囲気の花火大会が開催されるなど、栗原ならではの夏の光景が今年も各地区に広がり、どの会場も賑わいを見せていました。



- ①江戸時代から続く、くりこま山車まつり
- ②早食い競争が笑いを誘った、第68回泉のふるさと“たかしみず”夏まつり
- ③迫力ある薬師太鼓がつきだて七夕まつりを盛り上げる
- ④しづはた姫コンテスト(中央が今年のミスしづはた姫)
- ⑤すずめ踊りが祭りに花を添えた、うぐいすの里夏まつり
- ⑥切れのあるダンスが祭りを活気づけた、2025水車まつり
- ⑦瀬峰地区の区長会によるダンスが披露された、2025せみね夏祭り
- ⑧大型灯ろうに願いを込めた、一迫地区の第30回灯ろう祭
- ⑨盆踊りで心が1つになった、はなやま夏まつり
- ⑩⑪幻想的な雰囲気に包まれた、若柳夏まつり花火大会



ものづくりを親子で学ぶ

7月21日(月)から8月20日(水)にかけて市内13事業所で「親子工場見学ツアー in くりはら」を開催しました。この催しは、市内の事業所を子どもたちに知ってもらい、将来的な人材確保につなげようと県と市が共催したもので、今年で3回目の開催になります。

このうち、8月7日(木)に開催されたナブコトート株式会社の見学では、参加した5組15人の親子が、同社で生産する自動ドアの製造工程やショールームを見学し、説明に聞き入りました。



専門家などが病院経営を評価

8月6日(水)、エポカ21を会場に「第1回市立病院経営評価委員会」を開催しました。

この委員会は、市立病院の経営全般について、各分野の専門家から、評価や助言をもらい、より良い経営を図ることを目的に、毎年開催しているものです。

当日は、市立3病院の経営状況や取り組み実績を説明した後、委員から経営健全化に向け経費を減らす取り組みや、自治体病院が地域で果たす役割について、意見やアドバイスがありました。



伊豆沼・内沼のハス復活

7月26日(土)から「伊豆沼・内沼はすまつり」が開催されました。この祭りは、栗原の夏の風物詩として全国的に知られ、例年多くの観光客が訪れます。

今年は、3年前の大雨の影響でハスがほぼ全滅した状態から見事に復活し、多くのハスの花が見頃を迎えました。

市内2カ所の乗船場のうち、伊豆沼の若柳会場では、早朝から遊覧船がハスの間をゆっくりと進み、観光客がハスの大輪を間近で楽しみました。



力作が工芸ファンを魅了

8月5日(火)から8月10日(日)まで、栗原文化会館を会場に「第28回栗原市工芸展」が開催されました。

この工芸展は、市内を拠点に活動する9人の陶芸や彫刻、レザークラフト作家などが共同で開催したもので、当日は、約110点の作品が展示されました。

また、会場を訪れた人たちは、制作者に作品の材質や制作方法などを質問しながら、それぞれの力作に見入っていました。